

富士山が登場する文学作品・富士山を記した作家

古来より、富士山は様々な形で描かれていますが、歌や文学作品にも、その姿や伝承が記されています。ここでは、その一部を紹介します。

『常陸国風土記』

713年に編纂され、721年に成立した、常陸国の地誌です。風土記は、奈良時代に元明天皇の詔によって、地方の文化風土や地勢などを国ごとに記録編纂して、天皇へ献上させた報告書です。

『竹取物語』

九世紀後半から十世紀前半頃に成立したとされ、日本最古の物語とされています。

『富士山記』

平安時代中期に成立したとされる漢詩文集『ほんちやうもんずい本朝文粹』の、巻第十二に収められている漢文です。

『古今和歌集』

万葉集より時代が下って、905年に成立したとされる、最初の勅撰和歌集です。

西行

1118年に、藤原氏の流れである佐藤康清の子として生まれ、名を義清といたしました。23歳で出家し、円位と名乗りましたが、後に西行とも称しました。

『吾妻鏡』

鎌倉時代に成立した、歴史書です。1180年～1266年が、編年体で書かれています。

そうぎ 宗祇

連歌師である宗祇（1421年～1502年）は、姓が飯尾といわれていますが定かではありません。東常縁に古今伝授を授けられたことで知られています。

松尾芭蕉

江戸時代前期の俳諧師で、三重県出身です。俳諧（連句）の芸術的な完成者です。

夏目漱石

『吾輩は猫である』『坊ちゃん』『こころ』など、多くの名作を残した日本を代表する作家です。

若山牧水

富士山に強い関心を寄せた、裾野市に縁の深い歌人です。

新田次郎

新田次郎（本名：藤原寛人）は、富士山観測所にも配属された気象庁の職員でした。



絵：大森明恍「富士」